

## 令和5年度 自己評価報告書

本校では自己評価1として、大項目として6項目、

- I 重点目標への取り組み
- II 地域との連携・協働による教育
- III 世田谷9年教育で実現する質の高い教育の推進
- IV 信頼と誇りのもてる学校づくり
- V 教育環境の整備
- VI 学校生活全般

について振り返りを行い、次年度改善できる点を明らかにし、共通理解を図っています。この他、保護者の学校評価とほぼ同じ設問となる自己評価を行い、次年度に向けた改善方策を立てています。今年度は働き方改革についての自己評価も実施しています。

児童、保護者、教職員がほぼ同じ設問になっているものが、学校独自項目の10項目になります。主語や言葉の使い方が異なるので、以下を例とすると、

- ・わたしは、自分のよいところや得意なことがわかっている。(児童)
- ・子どもは、自分のよいところや得意なことがわかっている。(保護者)
- ・わたしは、子どもたちが自分のよいところや得意なことをわかろうとする指導をしている。(教員)

このように、多少設問の文章は異なりますが、10項目では同じ内容を視点が違う3者が回答していることとなります。児童が自分の実感を、保護者が自分の子どもの実感を回答するのに対し、教員は実際にできているかどうかの実感ではなく、指導をしているかどうかの実感の回答となっていることは大きな違いであり、結果にも表れていると考えられます。この中で、

- ・わたしは、本を読むことが好きです。(児童)
- ・子どもは、本を読むことが好きである。(保護者)
- ・私は、子どもたちが本を読むことが好きになるように指導している。(教員)

この項目は10項目中3者とも、他項目と比べて際立って低い数値となっています。この項目は令和4年度からの新規項目であり、この2年間の推移は、

児童 74%→66%      保護者 61%→59%      教員 68%→84%

となっています。校長として、子どもたちにもっと本に触れてほしい、名文に親しませたいと思っ  
ていながらも、具体的な対策を取ることができていませんでした。令和5年の新年の学校便りの  
巻頭言の校長の言葉として「もっと本を読もう」と呼びかけ、以降の全校朝会で本の紹介を行いま  
した。令和5年度、4月からは、校長からのプレゼントとして、全校朝会に合わせて詩や短歌、俳  
句などを児童に紹介することを新たに行い、例年の読書月間の他に、年末から年度初めにかけて、  
校長が呼びかける読書月間を設定しました。

教員の意識は昨年より16パーセント向上しているのですが、数値としては大きな変化と感じられま  
す。児童、保護者の数値は減少しており、児童の減少値は8パーセント減と、数値としては1割近  
い落ち込みがあることが分かりました。教員との面談から、担任の先生は、家庭学習では音読を呼  
び掛け、授業としての読書(図書)の時間を大切にしようとしていることが分かりました。そして、  
いわゆる小説、物語文を読もうとする児童がとても少なく感じているが、物語文を読もう、と限定  
してしまうと、本を選べない児童、本を読もうとしないという児童が出てしまい、対応に苦慮して  
いる様子もうかがえました。次年度、教員の意識が他の項目のように9割以上となっていくことは  
現在の取り組みで想像できます。児童の読書への意識がもう少し高まるようになり、子どもが本に  
親しむようになった、という保護者の実感が上がるために、こういったことができるかを考え、実  
行していきます。

この他、自己評価1から、

「保護者・地域連携として、2年生と3年生の商店街とのかかわりについての違いについて質問  
されたときに明確に答えることができていない」ことが挙げられました。

これについては、キャリア教育で各学年が行う地域と連携した体験活動であるため、2年生と3  
年生だけでなく、各学年・けやき学級で行う活動を、学校として明確に整えていくように進めてい  
きます。現在校内研究部を中心にして全体で進めており、2月中旬に、次年度の各学年の仮のキャリ  
ア教育年間指導計画と、各学年の仮のキャリア教育目標を設定し、次年度の1学期に、改めて新担  
任が微調整を図り、進めていくものとして現在進行中です。これにより、2年生と3年生の商店街  
とかかわる活動については、活動が似通っていても、方針や考え方の違いを明確に説明できるよう  
になると考えています。

働き方改革の自己評価からは、

「職員打ち合わせの時間(R5 週2回15:30~15:45)では、児童の下校後すぐとな  
り、安全な下校という視点で不安である」という意見が多数出されました。

現在多様な働き方が認められる時代となり、時差勤務の職員も安心して打ち合わせに出ることが  
できるようになるためには時間の設定は重要な問題です。自己評価以降、児童の安全・安心が優先  
されるように、できる限り余裕をもって参加できるような時間設定にしていますが、まだできる範  
囲内であり、あわただしくなっているのが現状です。次年度はさらに余裕をもっての下校、余裕を  
もっての打ち合わせへの参加ができるような時間の設定になるよう時程の作成を進めており、こ  
ちらも改善できると考えています。